

# 広報ツールが つなぐ 架け橋

## ホームページでつながりました 沖縄県環境保全課との意見交換会

2月9日、沖縄県環境保全課からの申し入れによる意見交換会を行いました。沖縄県では、赤土流出による海域環境の悪化から、サンゴ礁の減少などの問題が起きている。これまでに赤土等流出防止対策地域協議会を立ち上げ、さまざまな対策を行っていますが、今後いっそう地域連携を図っていくため、その手法を模索していた際に再生協のホームページにたどり着いたようです。

当日は再生協の運営方針や今後の目標のほか、取り組みの一例として、四万十つるの里づくりの会、中村商工会議所、地元住民などと連携して行っている「ツルの里づくり」（えさ場・ねぐら整備）について紹介。地域連携のためには地道な取り組みが欠かせないことを伝えました。



四万十川自然再生協議会ホームページ  
<http://shimanto-saisei.com>

活動報告、イベント告知など  
再生協の情報が盛り沢山!

## 会報(本誌)でつながりました

### ACCU(ユネスコ・アジア文化センター)国際教育交流事業 韓国の先生方との交流会

2月11日、ACCUの交流事業で来高した韓国の高校の先生30名と交流を図りました。きっかけは何と本誌!同事業の窓口である高知県教育委員会が本誌を偶然見つけ、当会の活動に興味を持ってくれたとのことでした。

この日は、子ども対象の取り組みを指導している西内燦夫さん(四万十川流域住民ネットワーク代表)が四万十川少年探偵団(川での環境学習や清掃)について紹介。また、澤良木庄一副会長が入田ヤナギ林を案内し、菜の花を咲かせるための草刈りなど維持管理においても子どもたちが関わっていることなどを説明しました。



「生活と環境と教育のバランスが重要」と説明する再生協のメンバー



韓国の先生とがっちり握手で交流  
(左:澤良木副会長)



交流会は韓国語、英語の同時通訳で行われ、質疑も活発に

現地視察

四万十川アルバム スペシャル企画

## 今年もがんばりました! 「菜の花まつり」大特集

この春も入田河川敷は見事な菜の花畑に大変身!これは昨年の秋、入田地区の方々や県立幡多農業高校の生徒さんと一緒に入田ヤナギ林内の下草刈りをがんばった成果です。

3月20~22日には今回で2回目となる「菜の花まつり」が開催され、入田河川敷は約8,000人の人でにぎわいました。再生協は、今年も主催の四万十市観光振興連絡会議が行った企画会議の段階から参画し、昨年度の経験を踏まえて駐車場やブースの配置などを積極的に提案しました。当日は8つのイベントを運営しました。

### 四万十川自然再生協議会運営イベント

- 四万十川自然観察会
- 春の野草試食会&野草食品即売会
- 四万十川河川PRテント  
(河川事業や工事で伐採した樹木・竹のリサイクル紹介)
- 野鳥コーナー(巣箱づくり体験)
- 水際探偵団(川船での水中観察、伝統漁具展示)
- 空中探偵団(ラジコンヘリモニター見学、風船プレゼント)
- 菜の花写生コンテスト
- ざわめきテント(四万十川物産品・飲食物販売)



入田河川敷約3haが菜の花のお花畑に大変身!



にぎわう会場。土佐一條公家行列も訪れ、まつりに花を添えてくれました



菜の花写生コンテスト(菜の花と赤鉄橋などみんな上手に描いていました)



空中探偵団(ラジコンヘリに搭載したカメラで見た会場)



今年会場への至る所に案内板を設置。再生協の発案です!



四万十川河川PRテント(入田河川敷で見られる動植物などをパネルで紹介。わたがし&水ヨーヨーコーナーには行列ができました)



四万十川自然観察会(菜の花や貴重なマイヅルテンナンショウなどについて説明しました)



春の野草試食会&野草食品即売会(「あの草が食べられるの?」「ほのかな苦味がGood!」と好評でした)



野鳥コーナー(小さな子どもでも体験できる巣箱づくりが人気でした)



ざわめきテント(四万十らしい「アオノリちくわ」が人気No.1!)



水際探偵団(普段あまり乗る機会のない川船に子どもだけでなく大人も大満足)